

コロサイ人への手紙 聖書の学び

聖書研究の方法 How to Study the BIBLE

【一緒に聖書を読み、福音を分かち合うために】

3:15...聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。
16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。 17 それは、神の
人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。(Ⅱテモテ書 3章 15-17節)

(はじめに)

聖書は、すべての人々が手にとって読み、自由に学ぶことのできる開かれた書物です。あなたの友人たちの中にも、聖書やキリスト教に関心を持っている人がいるかもしれません。そのような方々と一緒に気軽に聖書を読み、福音を分かち合うことができたら素晴らしいことではないでしょうか。

1. 準備

聖書の学びのための準備をして祈りつつ備えましょう。

- ・聖書を学ぶのに適した時間と場所を決めて連絡します。そのとき、どの聖書を学ぶのか伝えておくのもよいでしょう。
- ・聖書の学びが恵みに満ちたときになるだけでなく、一緒に学ぶ方の人生の必要に答えるようなものになるように祈りましょう。
- ・事前に当該聖書箇所をよく読み、ガイドにしたがって、テーマや質問の答えを十分に把握しておきます。また、その聖書から自分の人生で経験した恵みについて、どんなことを分かち合えるか考えておきましょう。

2. 導入

- ・お茶やコーヒーなどを飲みながら、最近の様子を尋ねたり、自分の近況などを伝えたりして、学びのための良い関係とリラックスした環境を整えます。
- ・祈りは必ずしも必要ではありません。特にクリスチャンでない方と一緒に聖書を学ぶ時には、性急にならないよう配慮しましょう。もちろん、祈れる場合には祈ってから学びを始めるのは最善の導入となります。

3. 聖書の学び

(1) 聖書を読みましょう

- ・当該聖書箇所を読みます。読み方には、①一節ずつ交代で、②段落ごとに、③それぞれが黙読するなどの方法があります。
- ・それぞれで読みながら、聖書に次の二つのしるしを付けます。
「？」...疑問に思う語句や文章 「！」いいなとおもう語句や文章
- ・「？」と「！」を付けた箇所について分かち合います。「？」についてはなぜ疑問に思ったのか、「！」についてはどのように良かったのか分かち合います。
- ・疑問に答えられなくてもかまいません。その疑問について後の学びで扱う場合には、そのことをあらかじめ告げ、

すぐに答えられる疑問には簡潔に答えましょう。ここであまり長引かないようにした方がいいでしょう。

(2) 聖書を学びましょう

フォーカス

- ・聖書に書かれていることを観察し、まずどんな内容であるのかをまとめましょう。
- ・次にこの聖書がフォーカスしていることがどんなことなのか列挙してまとめておきましょう。当該聖書の主要なメッセージをくみ取ることにフォーカスしましょう。聖書を具体的に考えていくために、フォーカスを定めておくとい良いでしょう。分からないことがあれば、次回までに調べてきたり、牧師や教会のスタッフに聞いたりするようにします。

スタディ

- ・ガイドにある質問などを完ぺきに学ぶ必要はありません。分からないところは飛ばしたり、特定の聖書に大きな関心が生じて長くディスカッションしたりするのも良いことです。聖霊に導かれて学びましょう。
- ・解釈が困難な細かい語句の意味などに拘泥しないようにしましょう。聖書学者の間にさえ、詳細な意味については意見の一致が見られない場合があるので、それを明らかにすることには無理があります。
- ・学びの途中で、あなたがキリストにあって経験したことを分ち合う機会があれば、自由に分ち合いましょう。聖書を知的に学ぶことは重要ですが、聖書を通してキリストによって変えられたあなたの人生ほどに霊的にパワフルな学びは他にありません。

(3) 学びのまとめ～適用

- ・今日の聖書の学びのテーマをまとめましょう。一言で今日のテーマを言い直すとよいでしょう。
- ・今日の聖書から、特に学んだことや、新しく知ったことを分ち合いましょう。どんな感想やコメントをしても良いことを告げます。どんなことでも肯定的に受け止めることが大切です。
- ・学んだことを、どのように生活や人生に生かすことができるか適用について分ち合ってみましょう。

コロサイ人への手紙 緒論 Introduction

コロサイ書は使徒パウロによって書かれた 13 の書簡のうちの一つであり、非常に短いものですが、コロサイの人々が直面していた問題に答えながら、キリスト・イエスの栄光と恵みの豊かさを縦横無尽に繰り広げています。

パウロ書簡も当時の手紙の様式にのって書かれています。最初に差出人と受取人の名前が明記され、次いであいさつが述べられて感謝の言葉へと続き、本文に入ります。終わりの部分には再びあいさつが述べられて、祝福によって閉じられます。もちろん、随所にキリスト教信仰の特質が表現されています。

差出人

コロサイ書の差出人は使徒パウロであり (1:1)、おそらくは彼と一緒にいた者 (本文中にテモテやテキコ、オネシモなどが一緒にいたことが記されていますが、彼らが口述したかどうかは分かりません。) によって口述筆記されたものと考えられています (4:18)。

受取人

この手紙の宛て先はコロサイにあるクリスチャン共同体であり、比較的若い教会でした。パウロは 3 回の宣教旅行を行ないましたが、聖書によると彼がコロサイを訪問した記録はありません (2:1)。コロサイ教会はパウロの同労者であるエパfrasの働きによって始められました。この教会に関するニュースがパウロのもとに伝えられたので、さまざまな問題に答えるためにこの書簡が執筆されました (1:1-8)。パウロは主に大都市を宣教のターゲットとしていましたが、コロサイは小さな町でありそれほど重要な所でもありませんでした。コロサイは小アジア (現在のトルコ) の南東にあるリュコス川の流域にある町で、西にラオデキヤ、北西にヒエラポリスという比較的大きな町に隣接していました。

執筆時期と場所

コロサイ書がいつどこで書かれたのかについては学者たちの中で議論が分かれています。彼が投獄されていたことは明確です (4:3,18)。使徒の働きやパウロ書簡によれば、彼はエペソ、カイザリヤ、ローマの 3 か所で投獄されました。コロサイ書が若い教会に宛てて彼らの信仰を励まし、信仰の基礎について確認し、周りの異教的な習慣から離れてどのように成熟したらよいか記されているので、(あくまでも仮定ですが) より初期の投獄地であるエペソが執筆場所と考えられるでしょう。そうであれば、コロサイ書が書かれたのは紀元 52~55 年ごろ、パウロが第 3 回の伝道旅行の際にエペソに 3 年間滞在して働いていた時期と考えられます (使徒 19:8-10)。

執筆事情と内容

コロサイは他の町々と同じようにさまざまな宗教が交じり合っていました。特にキリストを信じたばかりの若いクリスチャンと教会にとって大きな問題であったのはユダヤ教との関係でした。クリスチャンが成熟するために、ユダヤ教の伝統や儀式や習慣を行なわなければならないという誤った考えから訣別し、イエス・キリストの十字架の死と復活の福音を個人と共同体の信仰と生活のあらゆることに当てはめるように教えています。

パウロが記している内容は、根本的にはユダヤ教に対する反論とイエス・キリストの究極的な中心性です。それによってキリストの福音がないがしろにされて、信仰のみならず生活までもが墮落することに対して注意を喚起しています。ローマ書のように前半は教理的な部分で、後半に実践的な教えが書かれるという構成ではありませんが、キリストの中心性を土台に据えて、すべての実践的教えをこれを軸にして展開しています。

コロサイ人への手紙 1章 1-14節 「感謝と祈り」

パウロはコロサイにいる信者に感謝と祈りを述べています。感謝の中では彼が福音の力を強調しています。今日は第一に福音についてフォーカスしてみます。福音の望みは私たちの信仰の土台になります。次に、祈りの中で真の知識が増し加わるように、そして、喜びを持って神様を感謝するようにと述べています。そこで第2に知識、第3に感謝について見ていきます。私たちは、せわしない仕事や日常の中で福音の望みから外れないためには、喜びを持って感謝し、互いに祈り合うことが助けになります。

1. リーディング Reading 聖書を読みましょう

・しるしを付けながら、コロサイ人への手紙 1章 1-14節を読みましょう。

「？」...疑問に思う語句や文章 「！」いいなとおもう語句や文章

・なぜ疑問に思ったのか（「？」を付けた語句や文章について）、またどうしてその語句や文章がいいなと思ったのか（「！」を付けた部分について）、自由に分かち合しましょう。

【コロサイ人への手紙 1章 1-14節】

1:1 神のみこころによる、キリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、

1:2 コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

1:3 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。

1:4 それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです。

1:5 それらは、あなたがたのために天にたくわえられている望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました。

1:6 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。

1:7 これはあなたがたが私たちと同じしもべである愛するエパfrasから学んだとおりのものです。彼は私た

ちに代わって仕えている忠実な、キリストの仕え人であって、

1:8 私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました。

1:9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。

1:10 また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。

1:11 また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、

1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。

1:13 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

1:14 この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

2. フォーカス Focus 焦点を絞りましょう

・内容観察：ここにはどんなことが書かれていますか？内容をまとめて自分のことばで言い表しましょう。

・フォーカス：当該聖書がフォーカスしていることは何ですか？（複数可）簡潔にまとめましょう。

3. スタディ Study 次の質問を手掛かりにして一緒に聖書を学びましょう

(1) (3-5 節) パウロが神に感謝した理由は何ですか？

(2) (5~6 節) パウロは「人は福音にある望みに基づき信仰と愛を抱く」、「福音が勢いよく世界中に広がっている」と述べて、福音の力を強調しています。クリスチャンの方は福音によってどのように信仰を抱くようになったか短く話し合ってみましょう。

(3) (9-12 節) パウロはコロサイ人のために、何を祈っていますか？

(4) (9-10 節) 当時のコロサイ人を励ますためにパウロは手紙の中で知識が高まるように祈っています。私たちも真の知識が増し加わるためにはどのようにすれば良いと思いますか？話し合ってみましょう。

(5) (3-5 節) パウロは神様に対して、コロサイ人がキリストへの信仰と互いに愛しあっていることを感謝しています。(12 節) また、コロサイ人たちに、喜びをもって感謝できるように祈っています。最近、特に感謝に思ったことを分かち合ってください。

(6) 聖書に詳しくなることと、感謝することは必ずしも同じではありません。感謝するにはどうすればよいと思いますか？

(13-14 節参照)

4. アプリケーション Application 人生に適用しましょう

・この聖書の学びによって新しく知ったことや気づかされたことを自由に分かち合いましょう。